

平成26年6月26日

平成26年度 鉄道設備投資計画について

「安全性の向上」「サービスの改善」を 2本の柱に、約80億円を投資

京阪電気鉄道株式会社（本社：大阪市中央区、社長：加藤好文）では、公共交通機関として、安全性、利便性と快適性のさらなる向上を目指し、毎年鉄道設備への投資を続けております。

平成26年度は、「安全性の向上」（約6.4億円）「サービスの改善」（約1.6億円）を2本の柱に、運転保安度の維持・向上や、お客さまの利便性向上を目的としたサービスの改善、環境に配慮した新型車両の導入など、平成25年度より約1割増しとなる総額約80億円の設備投資を実施いたします。基幹となる鉄道事業への設備投資を通じて、お客さまにより安全に、より安心して鉄道をご利用いただくことを目指してまいります。主な内容は下記のとおりです。

記

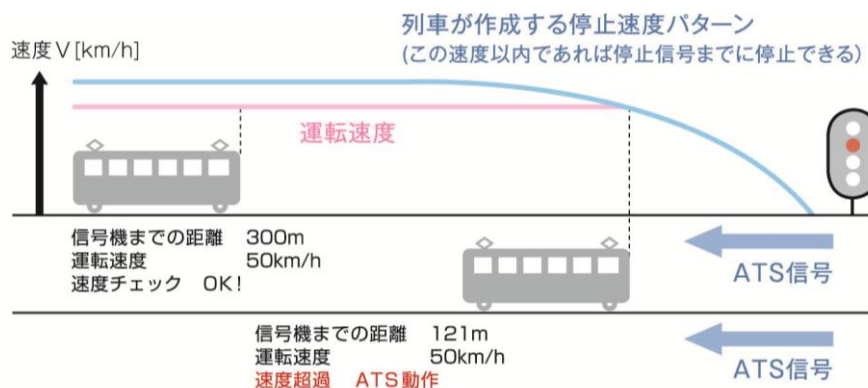
1. 安全性の向上（約6.4億円）

○新型自動列車停止装置（新型ATS装置）の導入

京阪線において、より安全・安定的な輸送を目指した「多情報連続制御式ATSシステム」を新たに導入し、運転保安度の向上を図ります。平成27年度からの一部稼働を目指して導入作業を進めています。

・新型ATS装置（多情報連続制御式ATSシステム）の特徴

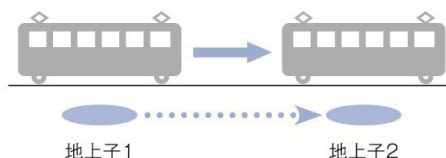
地上装置から列車に伝送された信号現示、転てつ器開通方向などの情報と、車上データベースに記憶された信号機位置、勾配などの情報に基づき、自車の制動性能と走行距離から上限速度を算出し、その上限速度値を用いて常時速度照査を行います。信号機や曲線などの情報に基づく制御に加え、踏切やホームでの異常発生時などにも対応する機能を有しており、従来にも増して安全性向上の実現が可能となります。



新型ATS概要図

・現行A T S装置（点制御式）の特徴

地上に設置した2つの地上子間の通過に要した時間を計測し、規定時間以下の時間で通過した場合は、速度超過と判断してブレーキを作動させます。



地上に設置した地上子間の通過時間を計測して標準時間と比較し、速度超過であれば自動的にブレーキを作動させるもの。

現行A T S概要図

○環境配慮型の新造車両を導入

環境への配慮やバリアフリーへの対応、安全性の向上に主眼を置いて開発された新型車両13000系を順次導入。従来車両（2200系、2600系）との比較で約35%の電力削減、走行騒音の低減、車いすスペースの確保、車体強度の向上等を実現します。平成26年4月には同2次車（4両1編成）が交野線・宇治線にて営業運転を開始、平成26年5月より7両1編成を本線に導入しました。さらに平成26年8月上旬までに7両1編成を導入予定です。

※13000系2次車は、当社として初めて車内照明および前部標識灯（ヘッドライト）にLEDを採用し、さらなる省エネ化を図っています。また、バリアフリー対応として、目の不自由なお客さまにドア開閉を動作に合わせてチャイム音でお知らせする「ドアチャイム」を新たに導入し、今まで以上に安全性を向上させています。



13000系車両



車内照明（写真上）と前部標識灯（写真下）にはLEDを採用

○駅の耐震補強を実施

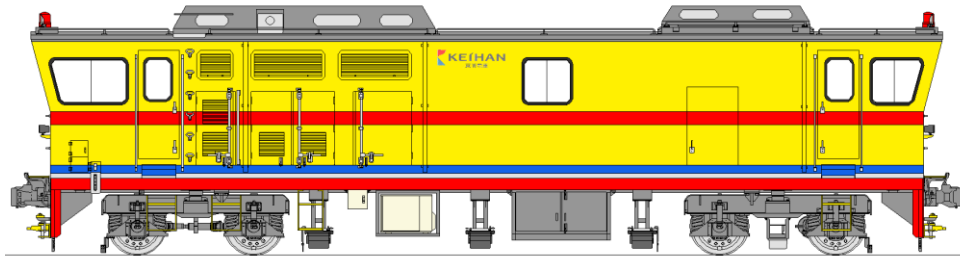
枚方市駅および守口市駅の耐震補強工事を実施しています。枚方市駅および守口市駅は、駅施設としてのみではなく、一部店舗等としても運営しておりますが、大規模地震などの災害発生時における駅利用者の安全や鉄道駅施設の機能維持を確保することにより、さらにお客さまに安心してご利用いただける駅となります。枚方市駅、守口市駅とも平成27年度に工事が完了する予定です。



耐震補強工事（イメージ）

○軌道検測車の更新

軌道検測車は線路上を自走し、軌道変位を検測するものです。その検測結果をもとに、軌道の管理や補修を行い、安全性の確保、乗り心地の向上に努めています。更新する軌道検測車は、レールにレーザーを照射することにより、光学的にレールの断面や変位を検測する最新のシステムを採用しています。これにより、日々の保守作業に必要な軌道検測データのさらなる精度向上を図ります。



更新後の軌道検測車（イメージ）

○変電所の更新

安全性の向上と、地震時での機能確保を図るため、変電所の更新を実施しています。平成24年度から老朽化した東福寺変電所につき、その代替として深草変電所の建設に着手しており、今年度中の竣工を目指します。



深草変電所（外観）

2. サービスの改善（約16億円）

○車両（6000系）の美装化及びバリアフリー化

既存車両（6000系）に対し、車いすスペースや液晶型車内案内表示器、ドアチャイムの設置などバリアフリー化への対応のほか、内装材の取り替え、非常通報装置の設置、座席の更新や握り棒の増設など、当社最新車両のインテリアデザインをベースに車内を刷新します。液晶型車内案内表示器には停車駅などのご案内のほか、ニュースや天気予報などの情報提供も充実させます。また老朽化した制御装置等の機器を改修することで、故障に対する予防保全及び機器の保守軽減を図ります。リニューアル工事は平成25年度から実施していますが、今年度は1編成のリニューアル工事を実施いたします。今後、年に1～2編成のペースで工事を実施し、平成33年度には6000系車両全編成（8両14編成）のリニューアルが完了する予定です。



6000系車両



液晶型車内案内表示器



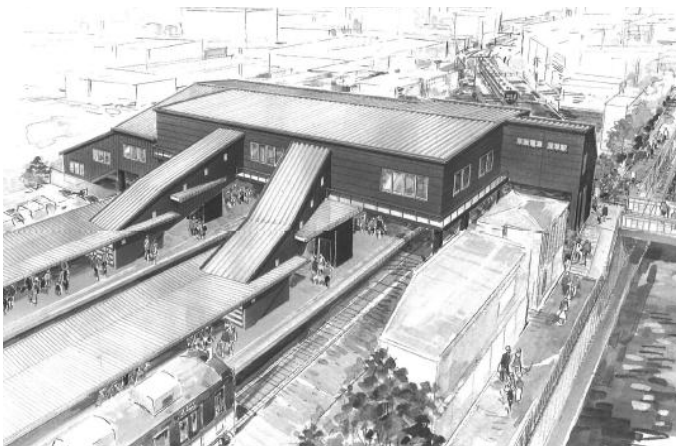
車内インテリア（イメージ）

○駅のバリアフリー化

村野駅において、エレベーター新設等による段差解消、多機能トイレをはじめとしたバリアフリー化設備の整備を昨年度より継続して行います。また、深草駅においては、駅舎を建替え、エレベーターの新設やバリアフリー化設備の整備を行い、あわせてホーム拡幅による混雑緩和と安全性の向上を図ります。



エレベーター



深草駅（完成イメージ）